

平成 21 年度海外出張に関して、次のとおり報告する。



ミラノ市パルメリ議長と大阪・ミラノ姉妹都市提携 20 周年記念の書の前で

(出張者) 大阪市会議長 舟 戸 良 裕

海外出張概要

- 出張期間 平成 22 年 2 月 6 日(土)～2 月 14 日(日) 9 日間
- 出張目的 ミラノ市、イシーレムリノー市、オーフス市における高齢者福祉施策、子育て支援施策、文化集客施策の調査
- 訪問都市 ミラノ市、イシーレムリノー市、コペンハーゲン市、オーフス市
- 訪問・視察先

ミラノ市

- ・パラッツィオ・レアーレ(王宮博物館)「日本・その権力と輝き展」
- ・サン・シーロ
- ・在ミラノ日本国総領事館
- ・ミラノ市役所

イシーレムリノー市

- ・サイバーシニア
- ・イシーレムリノー市役所

コペンハーゲン市

- ・在デンマーク日本国大使館

オーフス市

- ・オーフス市役所
- ・ヴェスタス社研究開発センター
- ・スカイビー大学病院
- ・ケアウェア展示会
- ・アレクサンドラ研究所
- ・生活リハビリ活動センター

はじめに

私は、平成 22 年 2 月 6 日から 14 日までの 9 日間にわたり、中小企業が集積した「ものづくりの町」として名高く、かつ大阪市の姉妹都市である、イタリアの「ミラノ市」、最先端の I T を活用した施策を推進し、世界のインテリジェント・コミュニティ・ベスト 7 に選ばれたフランスの「イシーレムリノー市」、そして福祉国家として名高い、北欧デンマークの「コペンハーゲン市」及び「オーフス市」を訪問いたしました。

各都市で、デザインやファッションを活用した中小企業の活性化策や文化・集客施策、最新の I T を活用した各種施策、そして高齢者福祉や子育て支援策をはじめとする福祉施策などについて調査、視察を行い、また、意見交換をいたしました。

特に福祉施策については、大阪市とも交流のあるデンマーク第 2 の都市「オーフス市」を訪れ、世界最先端と言われる北欧の高齢者施策や公立病院・施設の運営方法等を調査、視察するとともに、市民の目線で計画の立案を行う「ユーザー・イノベーション」という新しい考え方について、学習するとともに、意見交換を行ってまいりました。

以上の調査、視察、意見交換について、次のとおり報告いたします。

2月7日(日)～8日(月)

ミラノ市(イタリア)

★ ミラノ市について

○ 歴史

- ・ ミラノは2,500年に渡る長い歴史の中で、異民族の侵入と外国による支配が繰り返され何度も行われた都市で、そのため歴史に比して、遺跡の類は残っていない都市である。
- ・ このように侵入・支配の多くが北部から行われたため、ミラノを含む北イタリアの人は、顔立ちだけでなく気質などの点でも、ローマやナポリなど中部・南部の人とは大きく異なっている。
- ・ 市の起源は、紀元前5世紀に遡り元はエトルリア人の都市で、紀元前3世紀頃にローマの支配下に入り「メディオラヌム」と称された。意味は「平原の真ん中」を意味し、これがのちに「ミラノ」の語源となった。
- ・ 3世紀には西ローマ帝国の本拠地となり、313年には歴史的にも名高い、「ミラノの勅令」が公布された。756年にはフランク族の支配になり、そののち神聖ローマ帝国に組み入れられた。
- ・ 12世紀に入り、経済的に力を付けてきたミラノは自治共同体を組織し、周辺のロンバルディアの諸都市と共に戦い独立、以降スフォルツァ家などが支配した独立君主国家(都市国家)となった。
- ・ 16世紀以降は、スペイン、オーストリア、フランスなどの支配下になり、1861年のイタリア統一を機に、イタリアに帰属。ミラノはイタリアの金融商工業の中心地として発展し、現在ではヨーロッパの主要商工業都市の一つとなっている。

○ 産業

- ・ 人口130万人で、ヨーロッパ有数の大都会の一つであり、ミラノ、トリノ、ジェノヴァを結ぶ三角形はイタリア経済の心臓と言われている。
- ・ 特にミラノは工業、商業、金融等イタリア経済の中心地としての役割を果たしている。
- ・ パリと並ぶファッションの発信地とも言われるミラノには、2つの見本市会場があり、合わせて75万3千㎡と、ヨーロッパで最も大きな見本市会場の一つとなっている。
- ・ 空港は市内にあり主に国内便が発着する「リナーテ空港」と1998年に

開港した本格的なハブ空港「マルペンサ空港」があり、日本との直行便も就航している。



★ パラッツィオ・レアーレ(王宮博物館)「日本・その権力と輝き展」

○ 対応者

- ・ Mr. Amedeo Poggi ミラノ市市会事務局、国際交流担当

○ 概要

- ・ 市の中心部にあるドゥオーモ(教会)の横に建つネオクラシック様式の建築物で、14 世紀のミラノの統治者、ヴィスコンティ家によって建てられた。
- ・ 王宮博物館の名前のおり、王宮として使用された時期がある。しかし、内部装飾は第 2 次世界大戦の戦火で焼失している。現在は博物館として利用されている。
- ・ 2009 年は「ミラノにおける日本年」と位置づけられており、これまでもパラッツィオ・レアーレにおいて、「侍展」や「春画展」などが開催された。
- ・ 「日本・その権力と輝き展」は、日本年の集大成となる展覧会で、桃山時代から、江戸時代までの作品を集めたかなり大規模な展覧会である。
- ・ 大阪市では、ミラノ市長・文化庁の要請、また、平成 21 年 9 月に来阪

されたミラノ市文化活動促進部長からも協力依頼を受けたこともあり、姉妹都市提携の友好関係をより一層深めるため、大阪市立美術館を中心に展覧会事業に参画している。

- ・ 主催はミラノ市であり、期間は平成21年12月7日から93日間である。
- ・ 内容として、武家社会の文化・芸術に焦点を当てており、景観図、肖像画、祭礼図、武具甲冑、婚礼調度、茶道具、南蛮美術などの作品を通して、豪華絢爛な美意識が花咲く一方で、様々な権力闘争の中で、生死感・無常観が深化された時代層を紹介するイベントである。
- ・ 日本側では、東京国立博物館の学芸員を中心に16名の学芸員と美術品専門業者を派遣して陳列作業を行うと共に、会期中も最小限の人数を滞在させ、現地展示環境下での作品の損傷や劣化が生じないように対応している。
- ・ 出展作品は尾形光琳作の国宝「八橋蒔絵硯箱」を含む214点で、大阪市立美術館では、重要文化財の「鶴松図屏風画稿」など9点を展覧している。
- ・ 会場は比較的暗く、落ち着いた雰囲気の中で展示物を鑑賞できるように設計されている。
- ・ 出展総数は214点であるが、会場規模や展示物への影響などから、約100点が展示されており、随時入れ替えを行っている。
- ・ 武具甲冑は勿論、能面や能衣装なども展示されており、詳細な説明書きが付されており、入館者にそれが何に使われるものか、分かる努力がなされていた。



パラッツィオ・レアーレ外観(内部は写真撮影不可)

★ サン・シーロ

○ 対応者

- ・ Mr. Amedeo Poggi ミラノ市市会事務局、国際交流担当

○ 概要

- ・ 正式名は「スタディオ・ジュゼッペ・メアッツア」で、ミラノ市内にあるサッカー専用スタジアムである。セリエAのインテル、ACミランの本拠地でもある。
- ・ 正式名は1980年に、インテルとACミランに所属した名選手ジュゼッペ・メアッツアの業績を称えて、旧称の「サン・シーロ」から改名された。そのため、「サン・シーロ」は通称だが、こちらの名称の方が今も有名でニュースやガイドでも使われている。
- ・ 1925年の建造で、イタリア最大の82,955人が収容できる。1990年にイタリアで開催されたワールドカップに合わせて大改修され、開幕戦が開催された。
- ・ 本競技場は国の指定記念物でもあり、日曜と試合日を除く日には、ガイド付きツアーが開催され、観光施設としても活用されている。
- ・ ツアーでは、観覧席、グラウンド、VIPルーム、さらには記者会見の会場なども見学できる。
- ・ さらに、インテルとACミランの歴史を紹介する博物館も競技場内に併設されている。本博物館は、イタリア最初のスポーツ博物館であり、3,000点以上を展示している。
- ・ 当日は試合が開催されており、かつ時間がなく、博物館の見学等を行うことは出来なかった。
- ・ 試合の応援では大太鼓や大砲の音と聞きまごうばかりの大音響の爆竹が使われ、イタリア国民のサッカーに対する熱狂ぶりの一端を感じ取れた。夕刻の試合の応援では、発炎筒が焚かれることも多いとのことである。
- ・ ワールドカップ開催スタジアムの条件でもあったため、改築の際に客席の天井となる部分に透明な大屋根を設けたが、埃がたまり、太陽光を遮るため、芝の育成に支障をきたしているとのこと。
- ・ 大阪市では、長居陸上競技場を「スタジアム」として想定し、2018年、2022年にFIFAワールドカップ日本招致開催地自治体に正式立候補している。

- ・ ワールドカップ開催の効果として、スポーツの振興、国内外への情報発信、イメージの向上、経済や産業の活性化、国際交流の促進、ホスピタリティーの向上などがある。
- ・ 2002年のFIFAワールドカップでは、大阪は長居陸上競技場で「チュニジア対日本」を含む3試合を開催。13万人を越す来場者があり、平均視聴率が45.5%の放送も行われた。
- ・ 全体では、大阪市を含む20都市(日本10都市、韓国10都市)で開催され、64試合を行い、総入場者数は270万人を越え、日本国内での経済波及効果は3兆1,828億円と言われている。



サン・シーロ外観



競技場内部

★ 在ミラノ日本国総領事館

○ 対応者

- ・ 城守茂美 在ミラノ日本国総領事館 総領事
- ・ 坂口尚隆 在ミラノ日本国総領事館 首席領事

○ 対談内容

- ・ 城守(じょうもり)総領事は、総領事としての赴任は本年1月であるが、1980年に在ミラノ総領事館に領事として在籍され、また、1982年には在イタリア大使館に一等書記官として在籍され、ミラノ・イタリアに精通された方である。
- ・ 会議ではミラノ市の最新情報を説明いただくとともに、詳細な資料も頂いた。
- ・ 在ミラノ総領事館は、イタリア北部8州(全体で20州)を管轄しており、イタリア全土の40%を管轄している。北部8州の人口は2,683万

人で、全人口の 45%。

- ・ イタリアの地方行政組織は、州、県、市町村により構成されている。
- ・ 州には、立法機関としての州議会及び執行機関「ジェンタ」があり、州長官は公選である。州は 1970 年に制度化され、県や市に比べ新しいが、地方分権の推進に伴い、大きな権限が付与されている。
- ・ 県にも同じく、県議会とジェンタがあり、県長官も公選。また、組織としては、県とは全く別のものであるが、県には中央省庁の事務所もあり、中でも政府監督官は、その県の治安の総責任者として、地方行政の重要な一角を担っている。
- ・ 市町村は、地方行政組織の中で、最も古くイタリア統一前から存在していたが、現在は州、県とともに地方行政組織の一つとして位置付けられている。同じく市町村議会とジェンタがあり、市町村長は公選。



在ミラノ日本国総領事館にて城守総領事と意見交換

- ・ イタリアの各地域、都市は各々が独自の発展の歴史を持ち、国の統一が 1861 年と比較的新しいことから、今日でも地方主義の傾向が強い。
- ・ 特に北イタリアでは、古代から諸外国の支配を受けており、人種、伝統、文化、生活様式、考え方などで、中・南部地域とは異なっている。
- ・ ビジネスの面でも、北イタリアは、その歴史的背景から、国境を接するフランス、スイス、オーストリアや、ドイツなどとの経済・文化交流が盛んであり、中部ヨーロッパの性格を有しており、地中海的な中・南部地域とは異なる。

- ・ 特にミラノは、面積 181 k m²。人口 130 万人。ローマに次ぐイタリア第 2 の都市である。周辺人口はミラノ県で 388 万人、ロンバルディア州で 955 万人である。
- ・ 政治的には 2008 年 4 月の上下両院選挙で、中道右派が勝利した。2009 年 6 月の地方選挙ではミラノの県長官も中道右派になり、ミラノ市長、ロンバルディア州長官も全て中道右派となっている。
- ・ 北イタリアは、全国鉱工業生産の約 55%、総輸出額の 72%を占める。また全国の失業率は 7.4%であるが、北部に限れば 5.0%と、ほぼ完全雇用が出来ている。
- ・ 特にロンバルディア州は、イタリア経済の中心地であり、地域 GDP は全国の約 20%、輸出では約 30%を占める。
- ・ ミラノは金融の中心でもあり、イタリア証券取引所もミラノにある。また「ミラノ・コレクション」でパリと並ぶファッションの中心地であり、国際見本市も重要な地位を占める。
- ・ イタリア企業の多くは中小企業である。多くは北イタリアに集中し、「ものづくり大国」でもある。経済のグローバル化により、生産拠点の中東欧・アジア諸国への移転が行われたため、より高品質の製品へのシフトなど、日本の企業と同じ苦境に置かれている。
- ・ 大企業は、経済危機、生産性の低下、国際競争の激化、エネルギー・コスト高により退潮傾向にある。アリタリア航空も経営再建中で、ハブ空港をマルペンサ空港から、ローマへ変更したため、同空港の発着便は大幅に削減された。
- ・ 北部 8 州には、236 社の日系企業が進出している。ミラノは日系企業の活動拠点であり、JETRO、在伊日本商工会議所もミラノにあり、会員数は 195 社である。
- ・ ミラノ総領事館管轄の在留邦人は 6,700 人で、内 3,700 人がミラノ在住である。全国では 11,000 人である。また、イタリアを訪れる日本人旅行者は、80 万から 100 万人とされている。
- ・ 大阪市とミラノ市が 2011 年に姉妹都市提携 30 周年を迎えることから、次年度に向けての協力もお願いした。

★ ミラノ市役所

○ 対応者

- ・ Mr. Manfredi Palmeri ミラノ市議会 議長
- ・ Ms. Federica Cipolat ミラノ市役所 市長室国際交流担当

- ・ **Mr. Amedeo Poggi** ミラノ市市会事務局、国際交流担当
(城守総領事もご厚意により同行いただいた)

○ ミラノ市の概要

- ・ パルメリ議長は、1974年生まれで、1996年にミラノ市会に初当選。優れた対人能力と市政との継続的関わりが評価され、2006年に市会議長として任命された。
- ・ 市長は不在であり、市役所からシポラット国際交流担当が出席された。
- ・ 1981年からの姉妹都市交流の経過とお礼を述べ、特に大阪で開催された2005年の「ミラノ展」、2007年の「イタリアデザイン界のマエストリ達展」では、ミラノ市の協力により、大阪市民が、姉妹都市ミラノの魅力を知る絶好の機会となったことを伝えた。
- ・ パルメリ議長からのミラノに関する説明は下記のとおりである。
- ・ 面積 181 k m²。人口 127 万人。イタリア北部の大商工業都市である。イタリアの主要な会社・商社はローマよりもミラノに本社を置いている。また各国からの企業オフィスも多い。
- ・ 近代的な高層建築物がある一方、西ローマ帝国時代やルネッサンス時代の歴史的建造物も多く残っており、それらが上手く融合されている。
- ・ デザイン、ファッションやオペラなどの文化、芸術の分野でパリと並ぶ、ファッションの世界的中心地でもある。
- ・ 産業は、繊維、衣料、皮革製品、農作物加工品、家具などが有名で、他にも自動車、工業用機械・ロボット、機械部品等の多様な分野で強みがある。殆どの製品は輸出向けで、イタリアの製造業の多くは北イタリアに集中している。
- ・ 市長は、任期 5 年。市民による選挙で選出される。レティツィア・モラッティ市長は実業家で、かつてベルルスコーニ内閣で、教育・科学・大学大臣を勤めている。
- ・ 市庁舎は、パラッツォ・マリーノ(マリーノ宮殿)と称されている。1861年から市庁舎となっており、トマーゾ・マリーノという裕福なジェノバの商人が建設したもので、マリーノ宮殿の名前の由来となっている。市長室・議会などはここにおかれている。
- ・ 新政権のキーワードは「自由、責任、参加」で、これらを念頭に「住みやすいミラノ」を目指す。
- ・ さらに、国の経済の中心としてミラノが持つ大きな力を有効的に活用するため、市長の支援・諮問機関として「戦略委員会」を設置した。戦略委員会は国内外の専門家や有識者で構成され、政治的観点から担当分野の方向性を監督する参事会(16名で構成)と協力してミラノのさらなる

発展に向けた戦略を策定する。

- ・ ミラノ市は、家計の支援とミラノの国内外の発展を優先課題としている。
- ・ 家計の支援は、福祉施策ではなく、むしろ物価面での負担軽減や、経済的な余裕をもたらすことで、生活の質を向上させるという意味である。
- ・ そのためには、周辺部における再開発、インフラ・緑地・物流システムの整備、新エネルギー資源の開発、行政機構の改革、国内外からの企業誘致に向けた支援への積極的な投資を行う。
- ・ 投資のための財源については、国内外、特にEU圏内から求め、ミラノ債の特別発行も行う。



ミラノ市パルメリ市会議長と姉妹都市提携 30 周年に向けて握手

○ 質疑応答（大阪側 O、ミラノ側 M）

O：ミラノの市議会制度を教えて欲しい。

M：市議会は市長と 60 名の議員から構成され、議長が召集する。任期は 5 年。議会には 10 余りの党派があり、最大のものは、市長支持派で 23 人。

O：ミラノは日本人、特に女性が訪問したくなる町である。安心して安全な町であり、私の妻も 2 回訪問している。